

発言通告書（総括表）

平成28年第2回定例会 代表質問

NO	発言者	発言事項	発言要旨	答弁を 求める者
1	桜井議員 (自民)	<p>○災害対策について</p> <p>○地域コミュニティの活性化について</p> <p>○福祉施設の整備について</p> <p>○新たな区民要望を受けた風ぐるまの運行について</p>	<p>○今回の熊本県を中心とした地震災害を検証し、区民の生命と貴重な財産を守るための対策を考える。</p> <p>○災害時には地域コミュニティの絆が大きな力となって発揮される。</p> <p>○地域活動への参加促進をするうえで区は情報共有やきっかけづくりをどのように行っていくのか。</p> <p>○国の『一億総活躍社会の実現に向けて緊急に実施すべき対策』として国有地を活用した介護施設の整備に加え、老人保健施設や障がい者グループホームの整備も考えてはどうか。</p> <p>○区民の関心の高い風ぐるまの運行について、区民要望をどのように受けとめ、どのような視点に立って変更するのか。</p>	区長及び 関係理事者
2	はやお議員 (千代田)	<p>1. 平成28年度予算原案の減額修正について</p> <p>2. 政策研究所の進捗と人材育成について</p>	<p>(1) 平成28年度予算原案の減額修正について、区長はどう捉えその後どう対応してきたか問う。</p> <p>(2) 平成28年度予算原案の減額修正について、様々なマスコミ媒体への区側の発言を区長はどう受け止めているのか問う。</p> <p>(1) 政策研究所の進捗について問う。</p> <p>(2) 人材育成の課題と今後の方向性について政策研究所の進捗を踏まえ区長に問う。</p>	区長、教育長 並びに 関係理事者
3	木村議員 (共産)	1、暮らしを応援する施策を	<p>アベノミクスは、実質賃金と個人消費を冷え込ませ、貧困と格差を拡大した。経済政策に民主主義が求められる。</p> <p>暮らし応援の具体的施策として①公契約条例における賃金下限額の引き上げと、②区独自の給付型奨学金の創設を求める。</p>	区長及び 関係理事者

発言通告書（総括表）

平成28年第2回定例会 代表質問

NO	発言者	発言事項	発言要旨	答弁を 求める者
3	木村議員 (共産)	2、災害に強いまちづくり －熊本地震の教訓にも学び 3、公共施設について	(1) 木造住宅の耐震助成の拡充 (2) 感震ブレーカー設置への助成制度 (3) EV閉じ込め救出訓練への支援 (4) 福祉避難所 (5) 地域とマンションの良好な共存関係をめざす地域の取り組み (1) 公共施設等総合管理方針について (2) 区民館、区営住宅等のいくつかの公共施設の運営について	区長及び 関係理事者
4	小林た議員 (声)	免震構造の重要性と認識について	1. 区長は、熊本地震の教訓を踏まえ災害時のよりどころとなる学校・公共施設の安全性は、「被災時対応政策」の要であるという認識はありますか。 2. 麴町小学校（麴町二丁目複合施設）は、どういう理由で唯一免震構造になったのですか。 3. 麴町小学校新設以降新築された学校・保育園施設、九段中等教育学校（富士見校舎）・富士見小学校・ふじみこども園・麴町中学校・神田保育園・麴町保育園は、なぜ、免震構造にしなかったのですか。 4. 現在、建替中の九段小学校校舎は、崖地修復のため大幅に工期が遅れていますが予定通り耐震構造で進めますか。免震構造に設計変更しますか。 5. 麴町小学校新設以降（平成15年（2003年）以降）の公共施設は、15ありますが子ども施設を除く3件のみ例外的に制振・免震ですがなぜですか。 6. 現在、計画中の万世橋出張所の工法についてまだ何も示されておられませんが無震構造を採用する予定ですか。 7. 今後、新設する全ての公共施設は、免震構造で整備することが望まれます。区長のお考えはいかがですか。	区長のみ

発言通告書（総括表）

平成28年第2回定例会 代表質問

NO	発言者	発言事項	発言要旨	答弁を 求める者
5	岩佐議員 (紡民)	1. 介護・保育従事者への支援・負担軽減と育成について 2. 高齢者総合サポートセンターについて 3. 児童相談所開設にむけて 4. 行政評価制度再構築とちよだみらいプロジェクトについて 5. 災害対策について 6. シティプロモーションの観点から考える各種届出について	① 人材確保・育成について ② 事業所支援による職員の負担軽減について ① 福祉の拠点としてのあり方と活用について ② 施設・設備等の見直しについて 一時保護施設と人材確保、その体制について ① 区の責任について ② 平成28年熊本地震に学ぶ災害対策について 千代田デザインの届け出について	区長並びに 関係理事者
6	大串議員 (公明)	「安心して生み育てられるまち、千代田区」を目指して！	1) 妊娠、出産、産後ケア、子育ての切れ目ない支援について。 個々のサービスは充実されているが一元的な対応が難しい。切れ目ない支援が必要であるがどう体制を整備し、妊娠から子育てまでの包括的支援を行っていくのか。 2) 身近で何でも気軽に相談できる子育てコーディネーターの役割はきわめて重要である。果たすべき役割とは何か。またその拠点をどこに置くのか。 3) 将来を見据え、「総合母子保健センター」を構想してはどうか。情報発信、相談、カウンセリング、産後宿泊滞在、産後ショートステイなど、保健師・助産師・医師・保育士などが協力して家族を総合的に支えるセンターを提案する。ご所見は。	区長および 関係理事者